



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：ハマド首長からタミーム皇太子への権限移譲

2013年6月24日、カタールのハマド首長は王族と国内の有力者との協議の後、首長の座をタミーム皇太子に譲位すると発表した。ハマド首長は、現地時間の25日午前に演説を行い、その後25と26の両日、タミーム新首長が国民の忠誠表明の訪問を受け付ける予定である。ハマド首長は、1995年に首長家の家族内での対立を背景にハリーファ元首長を追放して首長の位に就いた。在位期間中、憲法の制定（2003年）、シューラー評議会の設置と選挙の実施、議員・閣僚への女性の任用、などの施策を行った。また、この間のカタールの外交は、アル＝ジャジーラ衛星放送を通じてアラブ世界の世論を先導したり、ダルフル問題、イエメンでの政治変動などで仲介を果たしたりするなどの役割を演じた。また、カタールはいわゆる「アラブの春」で政治変動が生じた諸国に積極的に介入し、チュニジア、エジプトへの大規模な経済援助、リビアへの軍事介入、シリアの反体制派支援を行った。

タミーム新首長は、1980年生まれで2003年より皇太子の座にある。皇太子に任命されて以来、腎臓に疾患を持つハマド首長に代わり、政治活動や勅令の発出を代行することもあった。

首長の座の譲位に伴い、近日中に内閣改造も行われる予定である。内閣改造では、1992年から外相を務め、2007年から首相も兼任してきたハマド・ビン・ジャーシム・アール・ハリーファが退任、タミーム新首長が首相に就任する見通しである。

カタールをはじめ、アラビア語の報道機関は今般の譲位の経緯や背景についてほとんど言及していない。このため、カタールの首長の交代が、同国の内政・外交においてどのような意味を持つのかは、今後タミーム新首長の下でどのような政策が打ち出されるかを観察した上で評価するしかない。特に、最近シリア情勢をはじめ、カタールが積極的に関与してきたいわゆる「アラブの春」の政治変動を経験した諸国の政治過程の行き詰まりが目立っているため、この分野で何らかの政策変更があるのかが注目される。

(高岡豊研究員)